伊豆毎日　2009.05.15（金）

世界の財産との認識で

旧日向別邸保存会が要望

旧日向別邸保存会（中井正勝会長、会員36人）では14日、市役所に斉藤栄市長を訪ね、旧日向別邸の保存に関して要望した。藤曲敬宏議員が同席した。

実業家・日向利兵衛の別邸だった同邸は昭和初期の建築。市によって平成17年9月から一般公開（土・日曜日と祝日、予約制）され、新たな文化的な観光スポットの一つとして人気がある。地下室は、ドイツが生んだ世界的建築家ブルーノ・タウトが来日、設計し、日本に残存する唯一の建物。18年7月には熱海市内では初めて国の重要文化財（建造物）に指定された。

また、ドイツにあるブルーノ・タウトのジードルンク（ベルリン集合住宅）は、ユネスコの世界遺産に登録されている。

斉藤市長にエドマイヤー支部長の手紙を手渡す中井会長

中井会長は、ドイツ建築家協会ベルリン支部のクリスチーネ・エドマイヤー支部長から斉藤市長にあてた「単に熱海だけのものではない」との手紙を手渡した。その上で「保存会は旧日向別邸を守ることが大前提。私たちに何ができるか分からないが、行政に積極的に協力したい」「土・日曜日と祝日だけでなく、もっと多くの機能を発揮できるように考えてほしい」などと要望した。

斉藤栄市長は、手紙を読んで「熱海市としても大変有り難い。世界の財産を持っていることの証と思う」と応え、「熱海の財産であると同時に世界の財産との認識を持ってこれからやっていきたい」と述べ、同保存会と市民の協力を求めた。